

中国企業の海外直接投資と経営資源獲得戦略

黄

磷

本稿は、中国企業の海外直接投資（以下では、FDIと略す）を「経営資源の獲得」という視角から分析し、中国企業のFDIの歴史的な段階として、そして、日米欧企業と比較して、「経営資源の獲得」という動機が突出している点が特徴であることを明らかにして、中国企業のFDIに関する研究の課題を示すことを目的としている。¹⁾

全体的にみて、中国企業のFDIはいまだに初期段階にあるが、グローバル化の潮流のなかで、先進国企業の過去の経験にくらべても中国企業の海外直接投資の増加スピードはかなり速い。しかしながら、中国企業の国際経営に関してはまだ端緒をつかめないため、統計データの整備や研究の蓄積が待たれている。本稿においては、入手可能な統計データで中国企業のFDIの全体像とその特徴を分析し、そして、「経営資源の獲得」行動に影響する要因についても検討したい。

キーワード 海外直接投資 (FDI), 経営資源の獲得, 国際 M&A,
競争優位の源泉

1 はじめに

1978年までの計画経済時代はいうまでもなく、1985年から始まった対外開放の後、中国企業の海外での活動はあくまでも政府の政治外交目的に基づいた対外経済援助に付随したものであった。中国企業が多国籍企業として頭角を現わしたのは1992年以降である。そして、2001年の世界貿易機関 (WTO) 加盟で中国経済のグローバル化に弾みがつき、中国企業の海外進出は本格化して加速した。とくに2004年以降、中国企業の海外直接投資（以下では、FDIと略す）が急増している。

全体的にみて、中国企業のFDIはいまだに初期段階にあるが、グローバル化の潮流のなかで先進国企業の過去の経験にくらべても中国企業の海外直接投資の増加スピードはかなり速い。

2000年ごろから、日本において中国企業の競争力はにわかに注目されるようになった。中国市場での厳しい競争を勝ち抜いた中国企業は、世界経済のグローバル化の流れに乗って新たな成長空間を求めて海外に積極的に進出している。いくつかの海外市場では、日本企業の